

宮古島観光動態レポート

2025年12月度 実績報告資料

主要KPI

2025年12月の主要指標と前年比較

入域観光客数（月次実績）

108,816人

前年同月比 +7.6%

12月単月の入域客数は10万人を突破。冬季においても
前年を上回る推移を見せており、観光需要の底堅さが数
値に表れています。

入域観光客数 月別推移 (4月～12月)



2024年	2025年
90,264	96,363
82,934	96,148
94,942	106,101
121,736	116,093
132,112	122,706
106,868	127,859
99,187	115,901
91,446	97,016
101,111	108,816
99,813	-
75,874	-
96,584	-
1,192,871	987,003

推定観光消費額の状況



推定消費額（12月）

8,013 百万円

前年同月比 +8.4%

解析結果:

客数の伸び (+7.6%) を上回る消費額の増加が確認されました。一人当たり消費単価の維持、もしくは上昇が寄与していると考えられます。

実績詳細比較表

カテゴリ	2025年12月度	2024年12月度	前年比
入域観光客数（合計）	108,816人	101,111人	+7.6%
観光消費額（推定）	8,013百万円	7,391百万円	+8.4%
推定人泊数	168,371人泊	172,529人泊	-2.4%
宿泊稼働率	43.0%	45.0%	-2.0 pt
リピート率	34.0%	27.0%	+7.0 pt

交通手段別構成

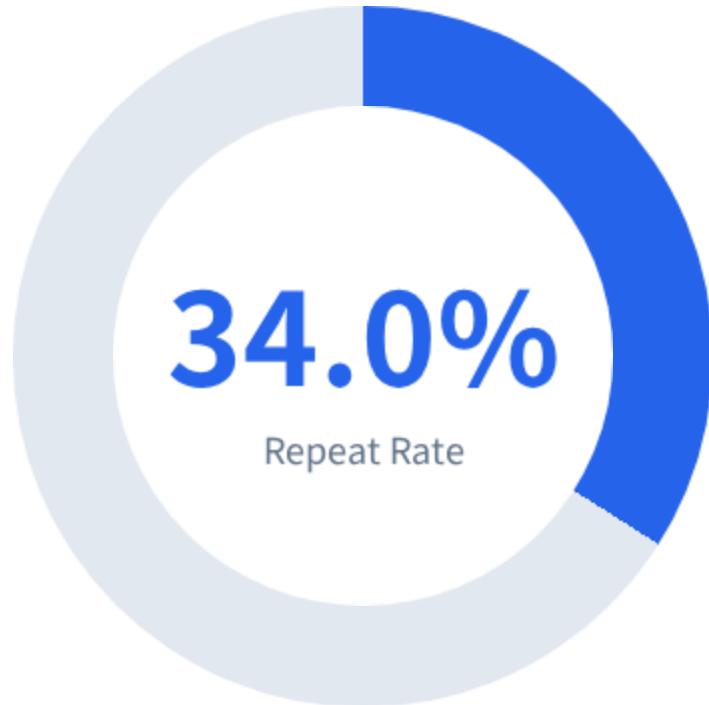
空路と海路の比較

空路客数 72,125人に対し、海路客数（主にクルーズ船）は 36,691人を記録。海路客が全体の約34%を占める構造となっています。

海路客は前年（34,369人）から約2,300人増加しており、クルーズ寄港の安定化が入域客数全体の押し上げに大きく寄与しています。



リピーター率の推移



リピート層の大幅な拡大

前年の27.0%から7ポイントの大幅な上昇が見られます。リピーター層が1/3を超える構成となり、宮古島観光が「一度きりの観光地」から「再訪する目的地」へと深化している事実を示唆しています。

■ 2025年12月: 34.0%

□ 2024年12月: 27.0%

宿泊稼働および滞在動向

宿泊稼働率

43%

前年比 -2.0 pt

推定人泊数

168,371人泊

前年比 -2.4 %

客数増と稼働率の乖離要因

入域客数が増加 (+7.6%) しているにも関わらず、人泊数と稼働率が減少している事実は、日帰り客（クルーズ船客）の割合増加、または平均滞在日数の短縮が進行している可能性を示しています。

データから読み取れる客観的事実



客数と消費の正相関

客数増(+7.6%)に対し、消費額増(+8.4%)と高い連動性を示しており、経済波及効果は拡大傾向にある。



ロイヤリティ向上

リピート率が7ポイント上昇し、観光客の定着化が進んでいる。34%という水準は極めて良好である。



滞在形態の変化

客数増の裏側で稼働率が低下。クルーズ客増による「滞在を伴わない入域」の影響が顕著に表れている。